

「これまでの国際比較研究，これからの国際比較研究：日韓を中心に」

金 成垣

<要旨>

2019 年末に始まった新型コロナウイルス感染症の拡大とその対応策の展開のなかで，我々の社会および経済活動のあらゆる面において大きな変化を経験せざるをえなくなった。研究活動もその例外ではない。各国の現地調査を主な手法とする国際比較研究の分野では特に大きな打撃を受けた。当初は，無力感を覚えつつ「コロナが終息すれば……」と考えた研究者も少なくなかっただろう。しかし，2 年近く時間が経過した現時点においても，ポストコロナの見通しは依然としてみえておらず，むしろウィズコロナがいわれつつづけているのが現状である。

このような状況にあっても，これまで日韓を含むアジア地域を対象とする福祉国家研究を行ってきた報告者の立場からして，国際比較研究はつづけなければならない。実際，この 2 年近く，国際比較研究をつづけるためのさまざまな試行錯誤をしてきた。そのなかで，このコロナ禍で国境の壁を強く感じることもあったものの，オンライン技術などの活用によってむしろ国境の壁を感じなくなった側面も大いにあり，危機が新たなチャンスとして生まれ変わる経験をしたこともけっして少なくない。

本報告では，この間の試行錯誤の経験を紹介しながら，主に①各国研究者の交流の場としての国際会議，②海外フィールドワーク，③国内での研究会，④その他の分野に分けて，コロナ禍でいかなる壁にぶつかったのか，それはどう乗り越えられるのかについて述べつつ，そこでみえてきた国際比較研究の限界と新たな可能性そして課題を共有したい。